

## 従属文または zu 不定句を伴う dadurch に関する考察

— 話し言葉で文法化する „dadurch, dass“ —

山崎 雄介

現代ドイツ語の話し言葉において、従属文または zu 不定句を後に伴う「da(r)-前置詞」が枠外配置される事例に関してコーパスで検索を試みたところ、例えば：

Das ist uns ebe zunichte geworden dadurch, daß mir meine Tante alles versprochen hatte und hat nix gehalten, gell? (Pfeffer Korpus: PF202)

といった文例が検出されたのだが、「da(r)-前置詞」を含む文全体のうちで枠外配置の発生頻度は大多数の「da(r)-前置詞」については概ね5%以下という調査結果が出た。その一方で、dadurch のみが30%を上回る突出した数字を示した。しかしながら、書き言葉に関して同じことを調査しても、話し言葉ほどに明確な差異は見られない。

話し言葉における dadurch のみがかくも頻繁に後続する従属節に引っ張られるように枠外配置となるのはなぜだろうか。上出の文例に操作を加えて、枠外配置となっている dadurch を枠内に戻して：

Das ist uns ebe dadurch zunichte geworden, daß . . .

としてみると、dadurch と dass 従属文との間に距離ができる。この距離によって両者の間の関係の緊密さが損なわれることを回避するためにやむを得ず dadurch を枠外に置いている、つまり「近接配置」(Kontaktstellung) という理由による枠外配置であると考えた。しかし、それだけでは説明のつかない文例が少なくなく、「近接配置」は従属文や zu 不定句を伴う dadurch が枠外配置される全ての事例に通用するものとは言えず、理由のひとつに過ぎないということになった。

そこで当該の文例を全て洗いなおしてみたところ、枠外配置された dadurch に後続しているのはことごとく従属接続詞 dass による従属文であるということが分かった。文例の意味に注目してみると、連続する dadurch と dass には、他の「da(r)-前置詞」に従属文や zu 不定句が後続する場合とは異なる、ある特別な役割が付与されているようにも見えるということが言えそうである。つまり、いずれの「dadurch, dass」も、主節で提示されている内容の原因や理由を言い表しており、原因や理由を表現する際に用いられる従属接続詞 indem や weil と同じ機能が「dadurch, dass」に与えられていると考えて差し支えないのではないか。

換言すると、本来は後続する従属文や zu 不定句を受ける「da(r)-前置詞」のひとつに過ぎない dadurch と従属接続詞 dass が、話し言葉においてはあたかも原因や理由を表現するひとつの従属接続詞であるかの如く扱われており、その点においてこの現象は「文法化」(Grammatikalisierung) と見ることができるのである。